

リトルワールドキャンプ 19

活動報告書



令和4年8月

静岡県立大学公認クラブ

リトルワールドキャンプ実行委員会

I. 私たちのミッション

静岡県には、様々な国の文化をもった方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くはないように感じます。そこで、キャンプを通し、子どもたちが異文化に興味を持ち、理解する場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。「多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子どもたちが身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供する」というミッション（活動指針）のもと、静岡県内の小学4, 5, 6年生を対象に毎年静岡県内の様々な場所でキャンプを行っています。

II. 活動内容

令和4年8月10日から12日に桃沢野外活動センターにて、2泊3日でキャンプを行いました。参加者は子どもが19名（日本の子ども16名、外国とつながりのある子ども3名）大学生スタッフ32名、高校生ボランティアスタッフ11名、通訳4名、顧問1名、合計で67名でした。今年度も新型コロナウイルスの影響により開催が危ぶまれましたが、2019年以来3年ぶりに、2泊3日でのキャンプを行うことができました。マスクの着用やこまめな消毒などの感染対策を講じ、子どもの笑顔あふれるキャンプを無事開催することができました。

1日目にははじめましての会、ウォークラリー、花火・スイカ割り、2日目に野外炊飯、大漁旗作り、高校生ボランティアによるレクリエーション、縁日、キャンプファイヤー、3日目は、工作とお別れの会を行いました。以下に、各プログラムの詳細を紹介いたします。

<1日目>

朝、バスを待つ子どもたちの中には、不安や緊張で表情が強張っている子もいれば、ワクワクする気持ちが前面に出ている子もいました。バスに乗った後、スタッフとコミュニケーションを取っていくうちに、少しずつ子どもたちの表情が明るくなっていくのを感じました。

施設に到着して入所式を行った後、最初のプログラムであるはじめましての会を行いました。はじめましての会では、まず子どもたち同士の自己紹介の意味を込めた「十人十色ゲーム」を行いました。このゲームでは、異文化要素を取り入れた質問を用意することで、多文化交流を図りました。また、少し照れながらも、楽しそうに自己紹介をする子どもたちを見ることができ、スタッフの緊張も少しほぐれた様子でした。十人十色ゲームが終わると、「国旗取りゲーム」を行いました。このゲームは、はじめましての会のメンバーが「陣取りゲーム」をリトル風に改良して考案したゲームです。このゲームでは、



十人十色ゲーム

自分と同じチームの子たちと協力して勝利を目指す、一生懸命で、勇敢な子どもたちの姿が見られました。

はじめましての会の後はウォークラリーをしました。ウォークラリーでは道順に沿って、班ごとになぞ解きをしながら進んでいくというコンセプトのもとに行われました。子どもたちにもスタッフにも緊張が見えましたが、全員が怪我もなく無事にゴールに到着することができました。道中のチェックポイントでは子どもたちが一生懸命知恵を絞りながら、また協力し合ってクイズを解く様子が見られ、子ども同士の仲が深まる機会になったのではないかと思います。ゴールに到着した子どもたちの顔は達成感で輝いているように見えました。

夕食後は、生活班とは別の4つの特別班で花火とスイカ割りをしました。生活班とは違うメンバーで行ったので、子どもたちは新しい友達と触れ合うことができ、交流の輪が広がっていました。花火では、火の扱いに気を付けながら楽しんでいる、子どもたちの笑顔と花火の火が輝いていました。スイカ割りでは、班のみんなでポルトガル語と日本語で指示を出しながら応援をして、協力してスイカを割りました。おいしそうにスイカにかぶりつく子どもたちの姿を見て、夏らしい思い出をつくることができたなど実感しています。



スイカ割り

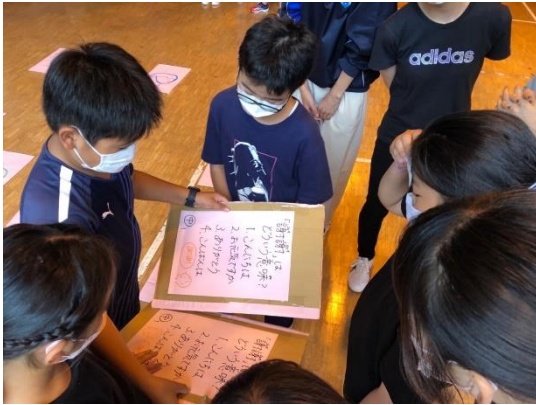
<2日目>

2日目は午前中から野外炊飯を行いました。野外炊飯ではカレーライスを作りました。スタッフが安全に気を配りながら、子どもたちにも火おこしを手伝ってもらいました。子どもたちも自分からやれることを探し、調理に生き生きと参加している様子が見られました。どの班も協力して作り、無事にカレーを完成させることができました。子どもからも「みんなで作ったおかげでいつもより美味しかった」という声が聞け、キャンプでの良い思い出の1つになったのではないかと感じました。



大漁旗づくり

野外炊飯後は、思い出の大漁旗づくりを行いました。みんなの手形で1つの大きな木をつくるというイメージのもとでそれぞれ好きな色を選び、とても華やかかつ迫力のある大漁旗に仕上げることができました。待ち時間には、キャンプのしおりに色塗りをしたりイラストを描いたりしました。生活班を中心に楽しく会話する様子が見られ、微笑ましかったです。



神経衰弱クイズ

の違いを学び理解を深めることができました。「王様ゲーム」はみんなで円になり王様を1人決め様々なポーズをし、他の子は王様のポーズを真似て、誰が王様か当てる役の子に見つからないようにするゲームです。王様になった子たちのポーズに文化の違いや性格が出ており、みんなでポーズを真似しドキドキしながらも楽しんでいる様子が見られました。

レクリエーションの後には縁日を行いました。縁日では、ペットボトルボウリング、輪投げ、スリッパかご入れ、射的の4つの屋台をパートナーと一緒に自由にまわってもらいました。屋台では得点に応じてシールがもらえるため、より良い点を出そうと、一生懸命頑張っている姿が微笑ましかったです。各屋台で得点が1番高い子にはメダルを贈りました。みんなの前で表彰してもらえて、とても喜んでいました。

夜に行ったキャンプファイヤーでは、まず蛇ジャンケンを行いました。2チームに分かれて、蛇のようにうねった紐を両側から伝い歩き、向かい合ったらジャンケンをして負けた方が自分のチームに戻る、勝った方は進むことができ、相手チームのスタート近くにあるゴールラインを超えたら勝ちというゲームです。ジャンケン英語で行ったため、言語の違いによる差を無くすよう取り組みました。競争を通して子どもたち同士が応援し合い、チームワークを築けている様子が見られました。

大漁旗づくりの後は11人の高校生ボランティアスタッフによるレクリエーションで、「神経衰弱クイズ」と「王様ゲーム」を行いました。「神経衰弱クイズ」はチームに分かれ2枚カードをひっくり返し、カードに書かれているスペインやポルトガル、中国などの文化や風習に関するクイズを、チームみんなで答えるというゲームです。みんなで協力してどこにどんなカードがあったか考え、答えを導き出しました。クイズに答えることで、文化や風習



キャンプファイヤー

最後にキャンプファイヤーを点火し、マイムマイムを参加者全員で円になって踊り、難しいながらもアドバイスしあいながら、笑顔で楽しむ様子が見られました。感染対策として、円になるときは手を繋ぐのではなく、紐を持ち合うという対策を講じた上で、取り組みました。

<3日目>

3日目の最初のプログラムは工作でした。写真スタンドとミサンガのキーホルダーを作りましたが、スタッフが子どもに教えながら制作を進めたことや、子ども同士がお互いの作品を見合うことで自然と会話が生まれ、2日間を通してできた友情がさらに深まったようでした。写真スタンドは、粘土を絵具で好きな色にしたり好きな形にしたりして、それぞれの個性が光った、世界に一つだけの写真スタンドを完成させることが出来ました。またミサンガは、編み方を覚えるまでは難しくても、覚えてしまうと夢中に編み進めていく様子が見られました。家に持ち帰ってもキャンプの思い出を振り返ることができる、素敵な作品を完成させることが出来ました。



ミサンガづくり

工作の後は、最後のプログラムであるお別れの会を行いました。お別れの会では、ビンゴ大会と寄せ書きを行いました。

ビンゴ大会では、ビンゴした子に3日間で行ったプログラムで一番楽しかったものがどれか、インタビューしました。子どもが一番楽しかったと答えてくれたプログラムの担当スタッフも嬉しそうにしており、3日間の思い出を笑顔で振り返ることができました。

寄せ書きでは、1人1枚配られたうちわに、子どもやスタッフ同士でメッセージを書き合う形が取られました。うちわがメッセージでいっぱいになり、真っ白だったうちわが色づいていく様子を見ていると、みんなで過ごした3日間の記憶がどんどんよみがえってくるようでした。「さよなら」の悲しさを感じさせない、思い出深いプログラムでした。

子どもたちは3日間を通して元気いっぱい、どのプログラムも全力の笑顔で取り組んでいました。またそれを見た私たちスタッフも、元気をもらい、楽しむことができました。子どもたち、そしてスタッフたちにとっても、この夏一番の思い出を作ることができたと確信しています。

Ⅲ. 事前準備

事前準備ではキャンプ当日に起こりうる事態を予測し、準備、対策を行いました。

6月18・19日に、桃沢野外活動センターで大学生スタッフによる下見合宿を行いました。キャンプ本番を想定したプログラムの予行演習を行い、キャンプの流れや危険個所の確認をしました。

7月9日に静岡県立大学にて駿河消防署の方々による救命講習会を行いました。救護対象の小学生における胸骨圧迫や人工呼吸のやり方、AEDの使い方を学びました。キャンプに参加するスタッフの半分以上がこの講習を受講しており、キャンプ本番の緊急時にも対応できるように備えました。



救命講習会

また、7月24日にキャンプ参加者の保護者の方に静岡県立大学にお越しいただき保護者説明会を行いました。

保護者説明会では主に3日間のキャンプのプログラムの内容や、コロナウイルス感染対策、安全管理についての説明を行い、質疑応答の時間も設けながら保護者の方へ安心してお子さんを預けていただけるよう務めました。

キャンプ直前の8月6日から9日にかけて、キャンプ参加スタッフで全体リハーサル、打ち合わせ、団結式を行い、本番に向けて最後まで課題を見つけながらより良いキャンプを目指しました。

《お問い合わせ・ご質問》

静岡県立大学公認クラブ リトルワールドキャンプ実行委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学 リトルワールドキャンプ

Email little_world_camp@yahoo.co.jp

HP <http://littleworldcamp.jimdo.com>